

「官民共創プロジェクト推進事業 ～官民共創の新しい形～」 取組報告会

地域・社会課題が多様化・複雑化し、自治体単独での課題対応が困難となる中、それをビジネスチャンスと捉え、自治体の課題解決と企業の収益性の両立を目指す“官民共創”の取組が注目を集めています。

今年度、官民共創プロジェクトとして、8月に意識啓発セミナー、10月に自治体向けワークショップ、12月に企業向けワークショップを開催しました。この度、今年度事業を通じて得られた気付きや、官民共創の成功に向けたポイント等を共有するため取組報告会を開催しました。

◆取組報告会（2024年2月6日・会場 GROWTH1）

I. 基調講演

「財務リターンと戦略リターンを兼ね備えた事業開発を実現するには」
～海外の事例（エスポー）／自治体との実証 実験＝自治体からの予算確保という思い込みからの脱却～
（ソーシャル・エックス 代表取締役 伊藤大貴氏）



◆講演要旨

- 戦略リターン（社会インパクト）を活かしたビジネス設計の事例
- エスポーの官民共創の事例
- 弊社サービス「逆プロボ」サービス説明
- 地方自治法と随意契約について
- 先進自治体に見る政策的目的随意契約の動き



当日の様子（GROWTH1）

II. 取組報告

自治体・企業の皆様へ、これまでの取り組みの報告や、今後の展開などについてご発表をいただきました。

III. パネルディスカッション

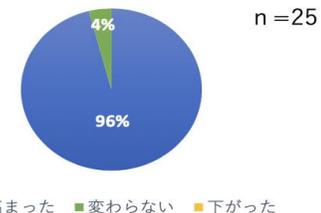
◆テーマ

- 自治体が事業開発に協力できることは？
- 自治体の誰と話し始めれば良いか？
- 自治体と企業、どのように相互理解を進めればよいか？ など

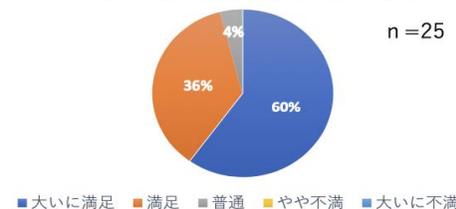
◆参加者からのコメント【参加者43名（対面・オンライン）】

- ◎行政として、地域課題に向けて解決策を講じるだけでなく、その課題を公表・共有することで、PPP/PFIではないが、民間のノウハウや視点からの解決策が講じられ、解決に向けて連携するという官民共創に魅力を感じました。
- ◎自治体職員さんからリアルな感想をしてくれたことが、非常に学びが大きかった。
- ◎現状の手法にこだわりすぎると事業者の方とのマッチング機会を失うのは、もちろんのこと地域課題解決への道のりがどんどん遠ざかって行くと思った。
- ◎「課題」と据えて解決を見出すことが難しく、民間の力が加わることでもっと効果的に市民サービスに結び付けられる期待が大きくなりました。
- ◎自治体にとって、このような事業は有益な事業なので、九州内で官民共創の取組が複数出てくるまでは継続して実施してほしいです。
- ◎ヒントがたくさんありました。ビジネスモデル、自治体の方がわかる説明など工夫したいことがたくさんあった。
- ◎ピンチをチャンスに！様々な方の意見が聞けて、モチベーション向上のため非常に良い機会となりました。
- ◎自治体は市民からの信頼があり、この心理的安全性を感じながら、今後も想いをつなぎつつ、行政と企業の多くのディスカッションが活性化できるように感じました。

本取組報告会を通じた官民共創の取組への関心の高まり（％）



取組報告会の満足度（％）



◆取組報告・パネルディスカッション

参加者

- <自治体>
- 飯塚市 行政経営部総合政策課
 - 佐賀市 政策推進部企画政策課
 - 鳥栖市 政策部総合政策課
 - 直方市 産業建設部商工観光課

- <企業>
- アドバンテック株式会社
 - 株式会社クロスケアデンタル
 - スタイルクリエイト株式会社

自治体も企業も、最初は相手が何を望み、自身が何を解決してほしいかわかりません。まずはどちらか片方から、それを解像度高く相手に伝えるところからスタートです。

企業から

企業がテーマとなる社会課題を設定し、それに対して提供できるリソースを提示。関心ある自治体が手を挙げる。

自治体から

自治体が企業と共に解決したい社会課題と、それに対して提供できるリソースおよびビジネス有効性を提示。関心ある企業が手を挙げる。

Copyright 2023 SOCIALX All rights reserved.

出所：(株)ソーシャル・エックスの講義資料をもとに作成

※原文のまま記載